





① しづさわ えいいち

## 渋沢栄一



1840年（今から178年前）深谷市血洗島の農家に生まれた。＜江戸時代＞小さいときから家の手伝いをし、勉強を一生懸命した。7歳の時、いとこの尾高惇忠（おだか じゅんちゆう）のもとに学問を習いに通った。



わかいころ フランスに行った

27歳の時、フランスに行き、約1年間ヨーロッパの新しいことを学んで帰ってきた。

30歳の時、富岡製糸場 設置主任となった。



渋沢 栄一（しづさわ えいいち）が行ったこと

- 第一国立銀行をはじめ、500もの会社をつくった。
- 600もの教育機関・社会公共事業の支援と民間外交に取り組んだ
- 夢七訓
  - ・夢なき者は 理想なし
  - ・理想なき者は 信念なし
  - ・信念なき者は 計画なし
  - ・計画なき者は 実行なし
  - ・実行なき者は 成果なし
  - ・成果なき者は 幸福なし
  - ・ゆえに幸福を求むる者は 夢なかるべからず



夢とこころざしまごころと思いやり

② おだか じゅんちゆう

## 尾高惇忠



天保元年（1830）深谷市下手計に生まれた。栄一のいとこであり、学問の師でもある。官営富岡製糸場建設に計画当初から携わり、初代場長を務めた。建設資材の調達に尽力し、工女の募集に至っては自ら範を示すため、娘のゆうを伝習工女第一号として入場させ、工女の教育を熱心に行った。

③ いらづか なお じろう

## 荻塚直次郎



文政6年（1823）、深谷市明戸に生まれた。富岡製糸場の建設において資材の調達のみとめ役を務めた。主要な建築材料の煉瓦もまだその製造方法もわかっていない中、直次郎は明戸の瓦職人たちを束ね、試行錯誤の末、煉瓦を焼き上げることに成功した。また、下手計の堀田鷲五郎も煉瓦を接着するためのモルタルを考案するなど、富岡製糸場の建設においては、深谷の人々が様々なところで活躍した。

## ふかや いじん

### 深谷の3偉人



渋沢栄一 尾高惇忠 荻塚直次郎

3学期は、**まとめ**の学期

3学期は、**次への準備**の学期

ゆめ もく ひょう  
**夢や目標にむかって**  
ど りょく つづ おお  
**努力をし続け、大き**  
せい ちよう  
**く成長してほしい**

いち がつ ぜん こう ちょう かい  
**1月全校朝会**

**3学期の のこりは**  
**1・2・3年生→49日**  
**4・5年生→50日**  
**6年生→48日**

**さあ、ラストスパート！ 平成31年1月15日**